



東北大学

平成 22 年 3 月 2 日

報道機関 各位

東北大学大学院環境科学研究科

第 20 回環境フォーラム  
「北九州の環境と国際協力への取り組み—行政・企業・学界の視点から—」  
開催のご案内

経済が低迷し地球環境問題が深刻化する中で、経済と環境の両面で持続性が問われています。これらの問題にグローバリゼーションが密接に関わっていることは、つとに指摘されていることです。とりわけ地方の経済にとって、この問題は深刻です。グローバリゼーションが進展する中で、経済と環境の両立を図り、持続的な地域社会を作り上げて行くにはどうすればよいのか。これがいま私たちに問われていることではないでしょうか。

そのような中で、北九州は高い工業技術力と東アジアとの歴史的なつながりを生かして、環境技術の研究開発と応用を用いて環境関連産業を集積し、同時に環境技術をアジアに移転する国際協力に取り組んでいます。かつては公害のため「死の海」と云われた洞海湾を、今では 100 種類以上の魚介類が生息するまでに回復させた北九州市は、80 年代には官民一体になって環境再生を果たした奇跡の町として内外に知られるようになりました。さらに北九州国際技術協力協会（KITA）を通して環境技術の研修事業を行い、アジアの人材育成と技術移転に寄与しています。研修事業の目玉の一つが我が国でもっとも早く設立されたエコタウンです。エコタウンは地域の循環型社会のモデルとして内外から多く見学者を集めています。

北九州の環境への取り組みには、地域の研究機関、とりわけ大学が重要な役割を果たして来ました。他方、行政や民間の取り組みは、大学の環境研究や国際協力にも大きな影響を与えています。近年は複数の大学による共同の環境研究を行う試みも行われています。

本環境フォーラムでは、北九州の環境と国際協力への取り組みを、行政、企業、学界の視点からご紹介いただき、グローバリゼーションの中で持続可能な地域社会を築くにはどうしたらよいか、そのためにはどのような課題を克服しなければいけないのかを考えたいと思います。このような問題意識の下で、まず北九州市の環境対策と国際協力の歴史と課題について行政の視点から、次にエコタウン事業とリサイクル事業の課題について企業経営者の視点から、そして最後に大学の環境研究の国際的な取り組みについて研究者の視点から、講演をしていただきます。そして、パネルディスカッションを通して、総合的な理解を深めたいと思います。なお、このフォーラムは地域連携環境教育・研究センター（※）の事業として行います。

※地域連携環境教育・研究センターとは、地方自治体、民間企業、市民（NPO）のニーズと環境科学研究科のシーズを共有し、各々の実績・強みを活かした相互補完的な包括的連携ネットワークを形成することで環境問題の解決に貢献することを目指して設立された組織です。現在、環境科学研究科、宮城県、仙台市、東北経済連合会が参画しています。

記

第20回環境フォーラム

「北九州の環境と国際協力への取組み—行政、企業、学界の視点から—」

日時：平成22年3月10日（水）13：30～17：30

場所：東北大学大学院環境科学研究科 大講義室

主催：東北大学大学院環境科学研究科

共催：宮城県、仙台市、東北経済連合会

協賛：仙台広域圏ESD・RCE運営委員会・北九州ESD協議会（RCE九州）

詳細：<http://www.kankyo.tohoku.ac.jp/openlec/index.html#20th>

プログラム

13：35～14：30

「北九州市の環境と国際協力への取組み」

北九州国際技術協力協会 環境協力センター所長 中菌 哲 氏

14：30～15：25

「エコタウンとリサイクル事業について—企業経営者の視点から—」

西日本ペットボトルリサイクル株式会社 社長 鹿子木 公春 氏

15：25～16：20

「資源循環・低炭素型都市づくりの学際研究：福岡市と釜山広域市を中心に」

西南学院大学経済学部 教授 小出 秀雄 氏

16：35～17：25

パネルディスカッション

以上

(お問い合わせ先)

東北大学大学院環境科学研究科

担当：国際経済環境研究分野 教授 佐竹正夫

電話：022-795-4543

担当：研究企画室・広報室 物部朋子

電話：022-795-7408

e-mail：monobe@mail.kankyo.tohoku.ac.jp